

曹洞宗 蟠龍山 護国院 芳全寺

芳ほろれん蓮

2026年初夏号

而今の山水は、古仏の道現成なり

正法眼蔵山水経の巻より

令和8年初夏

No. 7



[特集] つながりを見つめ直す
お盆の過ごし方

つながりを見つめ直す お盆の過ごし方

一年間の大きな節目として、日本の文化に根づいているお盆。
変化の激しい現代を生きるわたしたちにとっても
ご先祖さまが地域や家庭に帰り、ひとときをともにするという感覚は
親しいものに感じます。
夏の極まるこの季節、
自らをとりまく様々な「つながり」に目を向けてお盆を迎えてみませんか。



お盆の準備をしていますか

芳全寺のある栃木県真岡市の
地域では、お盆は8月の13日か
ら16日までの期間です。
左にごく一般的なお盆の準備
と過ごし方をまとめました。ご
参考になさってください。

お盆の前まで

- ・ お塔婆や法要の申し込み
- ・ 盆棚にお供えする供物の
準備・飾り付け
- ・ お仏壇やお墓の掃除

13日 (迎え盆)

- ・ 迎え火
- ・ 盆提灯に灯りをつける

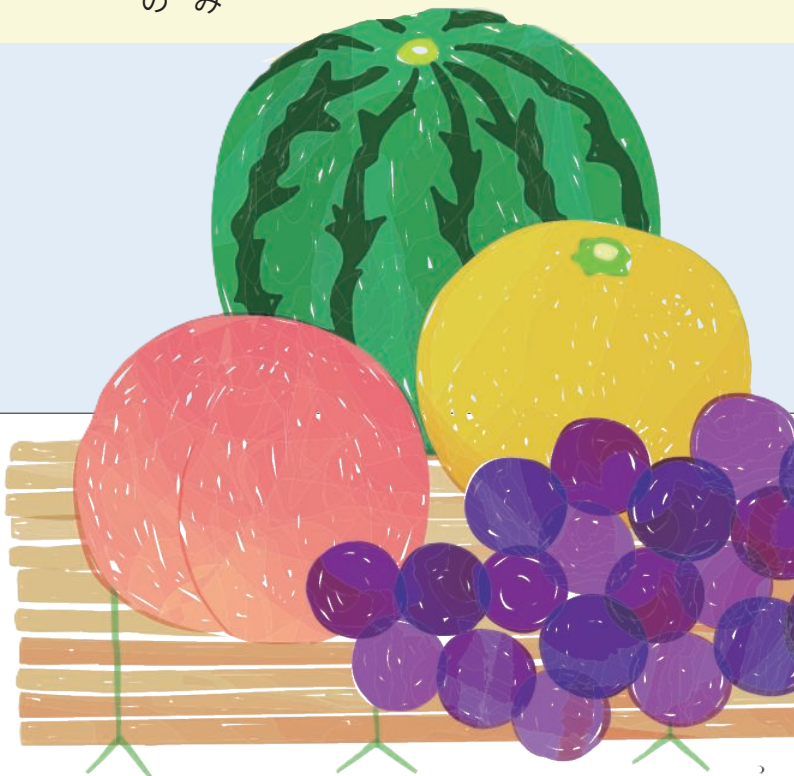
14日・15日 (中日)

- ・ 親族を招いて会食する
- ・ お墓参りをする

16日 (送り盆)

- ・ 親族を招いて会食する
- ・ お墓参りをする

ほおずき
鬼灯



今年のお盆 こころがけたいこと

01

今の自分につながる存在に
まなざしを

ご先祖を思い 家族を慕う

孟蘭盆会の起源である孟蘭盆経は、お釈迦様の十大弟子のひとりである目連尊者が、餓鬼道に堕ちた亡き母親を救済する物語です。

お盆はいま手が届かない存在となつたご先祖を思い供養することや、普段は離れて暮らしている家族と交流するきっかけにいたしましょう。

02

他者と過ごすひとときに見出すつながり

集い会う喜びを ともにする

お盆はお正月と並んで、人と人が集う伝統があります。

亡き人もこの世に集うとされるお盆。生きているわたしたちも、法要や山内の催しをきっかけにお寺に集い、同じ思いや目的、悲しみや楽しみをもとにしませんか。

03

今年も折り返し地点
自らを見つめて

一年の節目に 身も心も整える

夏まっさかりを迎えるお盆の頃。自分をいたわり慈しむ時間も大切です。

暑い日々には無理をしすぎず、ときには立ち止まり、身も心もゆっくりに整えてまいりましょう。

みずこ 水の子

お盆特有のお供えものである盆棚(精霊棚)。ご先祖をおもてなしするために野菜や季節の風物を用い、食卓のように設えます。精霊馬やおぼずき飾りなどのお供えは、日本の農耕文化が影響しているとの説も。仏教が由来のお供えとして「水の子」があります。水に晒した生米に賽の目に切った夏野菜を和えてつくる無縁仏や餓鬼のための食べ物です。ご先祖だけでなく普段は供養されない存在にも、平等に食べ物が行き届くように、という願いが込められています。



しょうりょううま 精霊馬

お盆の過ごし方

亡き人を思う気持ちをともしにする

大施餓鬼法要に 集いましょう

同じ思いを抱く方々が一同に集うことができるのが、合同法要です。大施餓鬼法要では、芳全寺にご縁のあるお檀家様が集い、ご自分のいのちへの感謝と、ご家族やご先祖、亡くなった親しい人々とのつながりを見つめ直す時といたしましょう。

大施餓鬼で鳴らされる楽器！？

引磬(いんきん)、平太鼓(ひらだいこ)、鏡鈸(によはつ)という仏具を使用するのが特徴です。平太鼓はよく知られている宮太鼓と比べて薄くて小さいもので、手の平に載せて叩く太鼓です。鏡鈸はシンバルのように両手で持って互いにすり合わせることで音を鳴らします。私にとってこの鏡鈸が一番力加減が難しい仏具で、力いっぱいやりすぎると大変なことも…

玲音の仏教メモ

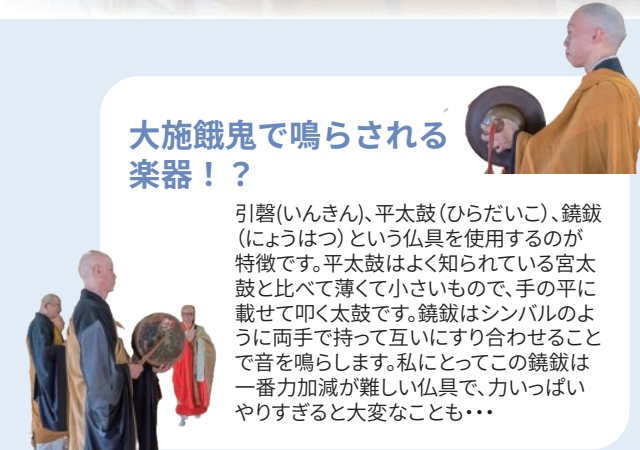
お盆は人々が「集まる」もの

日本の文化で、お盆は集まることこそが一番の目的のように思えます。お盆は多くの方がどんな大渋滞にあっても故郷に帰ります。そこに先祖供養といった厳密な理由は無く、親類や友人など生きている人が集まる時なのでしょう。

生きている人を養うためのお盆

お盆の由来である「盂蘭盆経」というお経があります。この盂蘭盆とは何かを語る時、逆さ吊りの苦しみ(ウランバナ)を語源とする定説がありますが、お経を読んでいると「逆さ吊りとは？」と疑問を感じていました。

近年「盂蘭盆とはご飯が盛られたお盆である」という説があります。ご飯を意味するオーラナというサンスクリット語が、中国で盂蘭という漢字を当てられたとするもので、確かに盂蘭盆経のお話としては、目連尊者が餓鬼道の母親を救うため、厳しい修行明けの



お盆の法要で読み上げるお経「甘露門」は、供養されることのない存在「餓鬼」に対して慈悲と食物を施し、菩提心を持つように促し奮い立たせるお経。導師と僧侶によって呼びかけの言葉が繰り返される様子は、生きているわたしたちも励まされているかのようです。ぜひ、法要で耳を傾けてみてください。

ご自分のペースにあわせた

お盆の過ごし方

お墓参りは、自分のいのちと、故人とのつながりに感謝する気持ちが大切。
体調や日程など、ご事情があつて暑いお盆期間中にお墓参りに行けない場合もあるでしょう。
そのようなときは次のようなお参りやご供養もどうぞご検討ください



お塔婆を 申し込む

故人の死と向き合い、冥福を祈って用意することから、塔婆には残された人の心を慰めるという一面も。

朝の時間を使って 午前中 にお参りする

お盆期間中は酷暑も予想されますので、日が高くなる前の時間にお参りされることもご検討ください。



法要の時間に合わせて ご自宅で 手を合わせる

法要に参列できない場合は、法要が始まる時間(8月7日14時)になったら、その場で心静かに手を合わせてご供養しましょう。

自宅で仏壇に お供えものを 用意する

故人の死と向き合い、冥福を祈って用意することから、塔婆には残された人の心を慰めるという一面も。



僧侶を集め食事を供養します。生きているお坊さんの英気を養うご飯こそが盂蘭盆。そこにお盆の原型があると考えられるそうです。

供養とお墓参りのこと

そもそも供養の語源は「供給資養」です。「供給」はお供えをすること。資養とは「元を養う」という意味で、「元」とは「自ら」を指します。お供えと同じに自分を養う。それが供養なんですね。自分を養う一番の方法は自らの命のありがたさを実感すること。それが自ずとご先祖様に対する感謝を生むのです。

私は思いを一番伝えやすい場所がお墓参りだと感じます。お仏壇と違い、そこに亡き方の御遺骨があると思うと普段思っていることや感謝を伝えやすい。

お盆は改めて自分を見つめ直し、気持ちの切り替えをする絶妙な時期。お墓にお参りしたくてもできないという方も、改めて自分の命とそのありがたさを実感して、ご先祖様を思う時間をお持ち下さい。



暮らしのそばで 縁をつなぐ (前編)



宝林寺ホームページ

芳全寺徒弟 荒木^{れおん}玲音 33歳
東北大学卒・玉川大学卒
一般企業に勤務後、
令和3年大本山永平寺別院
長谷寺にて安居
仏教を分かりやすく伝えるため勉強中

今回の対談は、群馬県邑楽郡の頃はむしろ、お寺からどう千代田町にある黄檗宗・眞福山 宝林寺、新堂の海野峻宏師です。海野師は、法人営業、新規事業の立ち上げ、全国各地の宿泊施設運営など、ビジネスの最前線を歩んでこられた異色のご経歴をお持ちの方。ご自坊と並行して育ててこられた寺泊事業「TEMPLESTAY ZENSO」の発想と歩みを、二号にわたって伺っていきます。

玲音 その「逃げ場を探していた」というところから、どこで気持ちが変わってこられたのですか。

お坊さんになる前に、 社会を知る

徒弟玲音（以下玲音）海野さんのご経歴を拝見すると、成城大学の経営学科を出られて、ビジネスに就職、その後はスタートアップ、お坊さん便と、ビジネスのまさに最前線を歩んでいられていますよね。

海野 大きな転機は東日本震災です。大学二年の終わり、二〇一一年の三月のことです。あの時、ニューヨーク・タイムズに、被災地を回って供養しておられる僧侶の姿が大きく出たんです。あの記事を見て、不覚にも「かっこいいな」と思ってしまったんです。当時の自分には何もできない。それで大学三年で休学して、京都・宇治の

海野峻宏師（以下海野）子ども

三年で休学して、京都・宇治の

萬福寺専門道場に一年お世話になりました。

玲音 まず修行を経験されたうえでビズリーチに入社、というのは伺っただけでも環境の変化に目眩がしそうです。

海野 ビズリーチは入社当時で百人ほどでしたが、一年半の間に六百人に膨れあがっていました。毎月優秀な方が中途で入ってくるし、同期もどんどんドロップアウトしていくような世界です。ただ、修行を一年経験していたからか、ある意味「これも修行に比べればまし」と思えたんですよね。あの一年が、社会に出てから一番最初に効いた気がします。

玲音 その後、お坊さん便（株式会社よりそう）で年間一万件規模の手配事業の業務設計を担当されたのも大きなお仕事でしたよね。

海野 あれは本当にいろんなものが見えた仕事でした。お葬式、お墓、仏壇まで、ひとつの動線として捉えて、提携審査から契約の立て付け、リーガルチェックまで一貫通で設計したんです。修行中、自分と向き合う時間がたっぷりあったなかで、お寺がだんだんポジティブに見えてきたんですよ。「意外と、なんでもやっていいんじゃないか」と。そこから自分のなかで、「お寺×○○」という掛け算を探していこうというのが軸になりました。

敷地の離れから始まる

玲音 その「お寺×何か」を探していくなかから、現在のTEMPLESTAY ZENSO につながっていくのですね。

海野 一番最初のきっかけは、よりそうの時に関わっていた民泊のプロジェクトです。みずほ系のインキュベーション会社とAirbnbで動いていたんですよ。住宅宿泊事業法が二〇一六年にできて、ちょうど新しいビジネスが生まれるタイミングでした。その時に「うちの離れ、空いているな」というのが、ずっと頭の片隅にあったんです。

玲音 そこから実際に立ち上げるまで、シェアウイング、GLOCALといった会社で、宿泊運営のオペレーションを学んでおられますね。

海野 学ぶ場として最適な会社ですが、いつもタイミングよくありました。シェアウイングではお寺を活用した宿泊事業を、GLOCALでは古民家やホテルの立ち上げから清掃、無人運営

玄関にある円窓からの風景

「たまたま鐘楼堂が見えるようになった」とのことだが、四季折々の表情を見せる景色はさぞ絶景だろう。



のDX化まで横断的に見せてもらいました。北海道から沖縄まで、毎週どこかに行って宿泊施設を立ち上げているような日々で。母が亡くなったタイミングで働き方を見直し、満を持して二〇一九年に宝林寺で始めたのがZENSOです。

玲音 ZENSŌについて以前お話を伺った時、印象に残った言葉が「宿坊のグラデーション」というものでした。

海野 私の友人がほぼお坊さんではない一般の方々なので、一般の感覚でお寺を見たときの距離感が、フラットに入ってくる

んです。「坐禅はやってみたいけれど、自分から寺に行こうとまでは思わない」という声が目まぐるしく多くて。じゃあ入り口を



□から1つ角が取れると△になり、全く角がなくなると○になる。

ZENSŌはZEN「禅」とENSO「円窓」をかけ合わせ、様々な意味を内包する言葉として編み出されました。ENSŌには、「円窓」や「円相」、ZENSŌには「禅僧」「禅荘」（禅の宿泊施設）といった意味を内包しているとのこと。

寺のような小さなお寺がそこ同じ土俵で戦おうとしても、お金も歴史も空気も違いますからね。だったら、薄いほうの入り口を丁寧に作る。同じラインの上に入るけれど、ぐっと入りやすい入り口を、私たちは引き受けようと。

えてあげればいい、と思ったんですね。センスのいい古民家風のゲストハウスに泊まったら、たまたま横にお寺があった。「せっかくだから坐禅でもやってみようか」となる。最終的に向かう場所は同じでも、動線を変えてあげる。これが宿坊のグラデーションです。

濃い部分は、高野山や善光寺といった、どっぷり宗教的なお寺が担っていらっしやる。宝林

空間設計のこだわりを随所に感じた。

ひとつひとつ海野氏から教えていただき、このZENSŌがどういう想いで形作られてきたか、その一端を知ることが出来た。



海野峻宏（うみの しゅんこう） 35歳

黄檗宗 眞福山 宝林寺 新堂

成城大学経済学部卒。大学在学中に黄檗宗大本山・萬福寺専門道場にて安居。卒業後法人営業・新規事業開発・宿泊施設運営に従事した2019年、宝林寺の敷地内の離れを活用した寺泊事業 TEMPLESTAY ZENSŌ を立ち上げる。JapanTravelAward 特別賞、Airbnb スーパーホストにも選出。檀家管理システムの開発にも取り組む。



高崎だるま発祥の地少林山達磨寺は同じ黄檗宗

玲音 ご経歴のひとつひとつが、いまのZENSŌにまっすぐつながっていることが伝わってきました。次号では、地域や檀家さんとの関わり、そして次世代を見据えた取り組みについて、引き続き海野さんに伺っていきます。・・・つづく

遺品整理という仕事

「アフターサポート”おーる”をお迎えて

近頃、檀家の皆さまから「親の遺品をどう整理したらよいか」「自分が元気なうちに身辺を整えたい」というお声を耳にいたします。今回、株式会社ウイング様にお越しいたいただき、お話をうかがいました。

会社のご紹介

ウイング様は岩手県を発祥に、東北・関東で調剤薬局を展開されている会社です。「おーる」はその中で立ち上げられたアフターサポート事業部で、遺品整理・生前整理を手がけられています。「薬局は本来、生きている方のためのもの。けれども、薬を通じて長くお付き合いの方が亡くなった瞬間、関係がぷつりと切れてしまう。亡くなったあとも寄り添える形があるはずだ」と山本社長は静かに語られました。全国の調剤薬局のうち、遺品整理まで手がけているのは「おーる」だけだそうです。

伺ったこと

立ち上げの背景には、社長ご自身の体験がありました。「祖母が亡くなった時に遺品整理を頼みましたら、相当なぼったくりを受けていました。ご家族と長くお付き合いしてきた末に皆さまがそうした目に遭うのは、是正したいと思ひまして」。

そのお気持ちから「おーる」では、誰が見積もりに伺っても同じ金額になる仕組みを徹底。相見積もりも歓迎し、提示金額から後で費用が増えることはないと言いつけられます。医療を背景にもつ会社ならではの、誠実で透明な姿勢を感じました。

ご相談が多いのは、お仏壇とお位牌の扱いです。閉眼のお勤めや、お位牌の供養など承ります。生前のお片づけ・ご遺品の整理にお悩みの方は、どうぞ「おーる」様へお気軽にご相談ください。



左から 対馬貴矢 様（株式会社ウイング アフターサポート事業部「おーる」主任）／ 荒木龍胤（芳全寺住職）／ 荒木玲音（徒弟）／ 山本考哉 様（株式会社ウイング 代表取締役社長）



お問い合わせ / アフターサポート”おーる” /
 フリーダイヤル 0120-905-739
 (受付 平日・土曜日9:00~18:00) / 関東全域訪問対応可能
<https://www.aftersupport-all.com>

七百五十年の時を超えて

—— 二祖さまの大遠忌をお迎えする ——

大遠忌とは

二祖さまを仰ぐ、二年間

「大遠忌「だいおんき」とは、宗祖や祖師さまの五十回忌からのち、五十年に一度お勤めいたします特別なご法事です。直にお目にかかれない私たちが、改めてお祖師さまの遺徳を仰ぎ、お徳のもとにご縁を結び直させていただく、まことに尊い機会です。

二祖懐奘禅師さまの七百五十回大遠忌は、曹洞宗の宗門にとりまして半世紀に一度の大佛事。令和十一年・十二年の二年にわたって両大本山・全国の末寺・檀信徒が心を合わせ、お徳を仰いでまいります。中心の御本法は、見開き中央のお知らせのとおり令和十二年十月十八日より二十四日まで、大本山永平寺にて厳修される予定です。

大遠忌に向けては、二祖さまのご事跡をお伝えする顕彰のお勤め、ゆかりの御霊跡をお参りする巡拝、そして山の大伽藍を末永くお伝えする保存・修復など、宗門挙げてのご事業が予定されております。お山にお登りになる御用、ご自坊でお勤めくださる御用、お一人お一人の場でお徳をお仰ぎいただける二年間となりますよう、ご準備が進められているところです。

芳全寺としての務め

二祖さまは、生涯ご自身を「お師匠さまの侍者」とお位置づけになり、お亡くなりになってからもなおお師匠さまの傍らに眠ることをお願いになりました。一度お受けしたご恩を、生涯を懸

けて、いいえ、命を超えてお返しにしようとした、そのお姿。

私たち芳全寺もまた、宗門の大きなご縁のなかで、大本山永平寺をお支え

お支え申し上げる末寺の一員でございます。二祖さまの七百五十回大遠忌をお迎えするにあたり、芳全寺といたしまして、出来る限りの協力をいたす所存であります。

光明



奘禅師750回大遠忌

10月18日～24日



光明をたずねて

永平寺二祖 懷奘[えじょう]禪師さまのご生涯



照らし合い 支え合い 今此処こゝで輝く生命いのちの光

大本山 永平寺 二祖懷
本法要：令和12年1

まから仏法を挙揚する資格を授かったことの証でもありません。以後、道元禪師さまにお仕えになることおよそ二十年。ご病気で十数日お側を離れられた以外は、

道元禪師を生涯お慕い申し上げ、お側で仕え抜かれた二祖さま。そ八十二年のご生涯を、いくつかの逸話とともに、たどってみたいと存じます

道元禪師とのお出会い

二祖さまは、建久九年（一一九八）、京の都にお生まれになりました。藤原家の家筋ながらご出家の道を志され、二十一歳の時に比叡山にて菩薩戒を受けて比丘となられます。比叡山では止観の修禪と当時の仏教学を広く学ばれましたが、教学の上のみで真実に触れることに飽き足らず、「不立文字ふりたつもんじ」の禪へと心を寄せてゆかれます。

その頃、お母さまから一つの言葉をいただきました。

——名利の学問のために学ぶのではない。世を渡る黒衣の僧として、背に笠を掛け、徒歩で歩いてゆきなさい。二祖さまは、その言葉のとおり、比叡山を下り、笠を背に、遊行の旅に出られます。諸師を歴参されたのち、宋より道元禪師がご帰国されたとの報を受け、京に道元禪師を訪ねられました。当初は法戦を望まれましたが、ご対面のなかで禪師さまの境涯の深さに触れ、ついにご入門をお願い申し上げます。

片時もお師匠さまから離れなかつたと伝えられます。道元禪師ご遷化の後も、二祖さまは御真像を掲げ、日夜の礼拝を欠かされませんでした。病に伏された二祖さまは、徹通義介禪師さまに任持の座をお譲りになります。なお二祖さまから直接ご教導をいただかれたお一人に、後の太祖たいそ瑩山紹瑾けいざんじょうきん禪師さまがいらつしやいます。

お師匠さまの傍らで眠ることを願って

弘安三年八月ご遷化なさいました。御遺言にはある願いがありました。

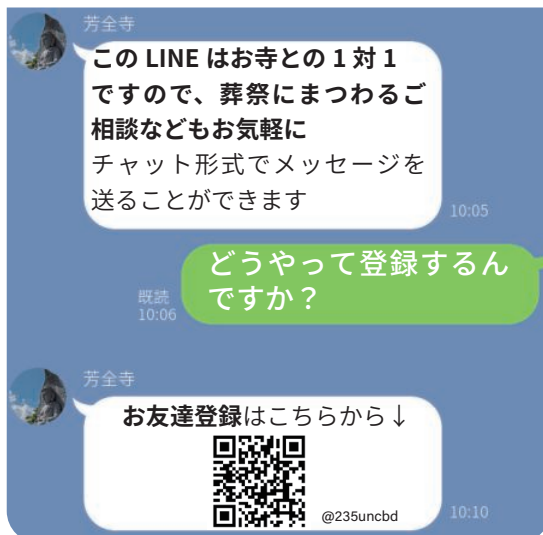
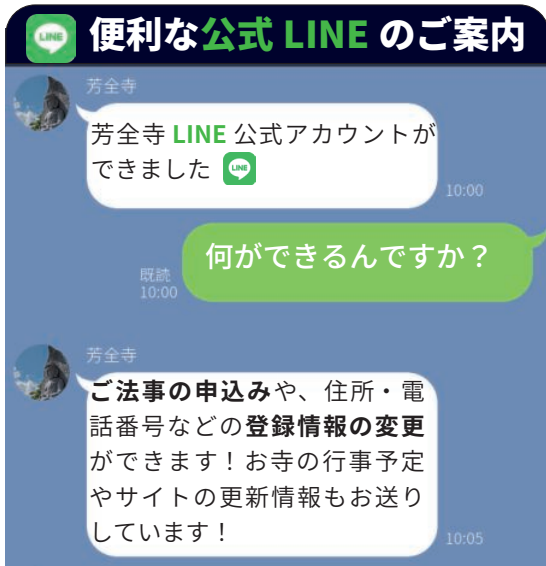
——自らの墓塔は立てず、道元禪師さまの傍ら、侍者の位置に埋めてほしい。

二十年の侍者として

嘉禎二年、二祖さまは興聖寺初代の首座となりました。これは、禪師さまより印可をいただかれました。

「靈骨、遺命に任せて、之を納むる塔無し」亡くなってなお、侍者であろうとされたお姿。その法灯は今なお続く。

芳全寺の便利な公式 LINE ができました



ご登録お待ちしております！

令和八年上半期の活動

長安寺寺族大夜・本葬儀

令和八年一月一八・一九日と茂木町長安寺寺族（故大崎智子儀 世寿百歳）の大夜・本葬儀に、住職は葬儀導師、徒弟は侍者として随喜させて頂きました。

お勤めの中、ふと三年前の当山寺族故荒木千代子の本葬儀を思い出しました。陰ながら寺院運営を支えてこられた姿が大崎住職のお話からも伝わり、故荒木千代子の姿と重なりました。

曹洞宗栃木青年会総会

令和八年四月二一日、栃木県曹洞宗青年会総会が開催され、徒弟の玲音が今年度も引き続き執行部員（会計補佐）ならびに地区理事に補任されました。
なお来年度は関東地区の青年会一同が栃木に集まり行事を行います。準備にも邁進致します。

海潮寺住職大夜・本葬儀

令和八年五月一六・一七日と真岡市海潮寺住職（宗徳宗弼大和尚）大夜・本葬儀に、住職は奠茶佛事師、徒弟は奠茶師侍者として随喜させて頂きました。師は長らく宗門の発展に寄与され、後進の育成にも注力された方でした。同じ教区の寺院として無事にお勤めでき安心致しました。

県北児童相談所訪問

令和八年五月二五日、青年会研修として県北児童相談所に訪問し、その仕事や苦労をお伺いしました。別途訪問の記録をホームページに記載予定です。

社会貢献活動

当山では社会貢献活動としてボランティア活動や非営利団体への支援を継続して行っています。
・おてらおやつクラブ
・公益社団法人ハタチ基金
・認定NPO法人キッズドア等

2026年の回忌法要早見表

1 周忌	令和 7 年 (2025) 逝去
3 回忌	令和 6 年 (2024) 逝去
7 回忌	令和 2 年 (2020) 逝去
13 回忌	平成 26 年 (2014) 逝去
17 回忌	平成 22 年 (2010) 逝去
23 回忌	平成 16 年 (2004) 逝去
27 回忌	平成 12 年 (2000) 逝去
33 回忌	平成 6 年 (1994) 逝去

※休日は混み合いますので、お早めにご相談下さい。

編集後記

寺報「芳蓮」第七号をご覧頂きありがとうございます。今回の目玉は同年代の黄檗宗僧侶・海野師との対談です。これまでのご経験が現在の活動に確かにつながっており、さらに寺泊という形に広げて高い評価を得ておられる姿に、大きな刺激を頂きました。同世代の僧侶がそれぞれの宗派で道を切り拓いている、その熱量を感じて頂ける記事になったかと思えます。二回に分けての掲載とさせて頂きました。後編もどうぞお楽しみに。

荒木玲音